

女のしんぶんかながわ
 (は私・女の目・友愛を意味します)

2023年
11月

NO. 105

女性会議神奈川県本部
 横浜市中区松影町2-7-21
 TEL・FAX 045-662-8148

トーク・シンク・アクション

女性会議神奈川県本部60周年記念講演会

軍事化とジェンダー

ジェンダーの視点で軍事化を止める

講師：杉浦 ひとみ 弁護士

1. 女性のための活動の歴史60年

歴史60年

女性会議神奈川県本部60周年ということ、私自身60歳を超えていますので子どもの頃を振り返ってみると、男尊女卑、男女格差が当然のような社会でした。例えば家庭に入ってしまった

例えば妻や子は「煮て食おうが焼いて食おうが夫の勝手だ」と聞いたことがあります。調べてみると、1965年法務省入国参事官であった池上勉さんの著書に(外国人は)「煮て食おうが焼いて食おうが自由」と書いてありました。今でも人を人として扱わない入管行政が変わっていないことも再確認できます。こうした中で育った私たちには「男女平等」と耳からは学んでいるのですが、気がつかないうちに浸み込んでいることがあり、それを問い返していくことが大切だと思えます。ですから男女平等、権利侵害に立ち上がった

女性会議の60年の取り組みに驚嘆し感動しています。

私は安倍政権以降の政治に大きな危機感を感じていました。

自民党は「憲法改正が党是だ」とし、その勢力がどんどん増えました。

明治以来「富国強兵」で天皇を中心とした「強い国家」を作るために、まさに天皇制を補完するために作られ強化されてきた「家制度」は「軍事化」とは切り離せないものとして存在しました。しかし敗戦によって新しい憲法が制定され、憲法24条により「婚姻の自由」だけでなく「男女平等」が定義されて「家制度」は廃止されました。ところが今また「戦争のできる国」にするために、廃止されたはずの「家制度」を「家族」や「氏」の形で回帰させようとしているのではないか。戦争に向かう準備段階を作っているのではないかと思えます。

これまで弁護士として関わってきた女性たちが、生活に密着した「地べたを裸足で歩く感覚」を持つていると感じたことが多々ありました。生きること、子どもを育てること、生活することを知っている「地べた感覚」を持った女たちが、戦争に突き進んでいる情勢の中で、自分たちで今の社会を変える動きができるのではないかと思っています。

2. 具体的な活動にむけて

初めての行動は2015年1月17日、安保法制に反対して赤をまとって国会を取り囲んだ

「女の平和」という取り組みで、国会を二重三重に取り囲むことができました。この運動は全国各地に飛び火して、今でも「レッドアクション」という名前で女性が平和や人権問題に声を上げるときに、一つのスタイルとして残ったという成果がありました。「赤をまとって」というのがオシャレで素敵だという声をたくさんいただき、運動がおしゃれであることの重要性を知りました。

そして今回の「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」です。昨年の安保三文書の閣議決定、軍事費をGDP比2%にして5

年間43兆円にするという。こんなことをしたら、医療も福祉も教育もなにも実現できなくなってしまう。今こそ生活と平和を守る女性が立ち上がろうと声明を作り、署名を集めました。2月8日、7万5千の署名を各政党に手渡し、記者会見で会の発足を発表しました。マスコミに取り上げられて熊本や大阪、北海道でも会ができました。さらなる広がりと繋がりを求めて、ミサイルがハトになるというコンセプトの黄色のスカーフを作りました。声を上げられなくても、集会に参加しなくても同じ思いを繋ぐスカーフを多くの人に広げて、話題にして、平和の輪を広げていきたいと思っています。

3. 乗り越える手立て 自信を持ち、一歩具体的なものに近づくと

敵基地攻撃能力の危険性など、今政府がやっていることを具体的に分かりやすく伝えていくことが大事です。例えば、「一発5億円もするトマホーク4百発をアメリカから買うと言っています。しかも前倒しで買う2百発は型落ちの物で性能が悪い。トマホークの時速は960キロ、

これまで弁護士として関わってきた女性たちが、生活に密着した「地べたを裸足で歩く感覚」を持つていると感じたことが多々ありました。生きること、子どもを育てること、生活することを知っている「地べた感覚」を持った女たちが、戦争に突き進んでいる情勢の中で、自分たちで今の社会を変える動きができるのではないかと思っています。

最近の旅客機は時速900から千キロで、旅客機の方が速い。ミサイルを発射しても旅客機が追い抜いていくというまるで漫画のようなことになるかもしれない。こんな武器を買っている場合じゃない。」こういうことを広めていくことが大切です。教育や介護や障害者にもっとお金を回すべきだ、ということですが、

アジアの緊張関係の問題ですが、GDP1位だったアメリカはずでに中国にトップを譲り、30年後にはインドにも抜かれます。日本は、インドネシアやブラジルにも抜かれます。欧米中心だった世界は変化しています。

中国は、中南米の左派政権との結束を強めています。新興国で形成する国連の枠組み「77カ国グループ（G77）プラス中国」は2023年9月16日、カリブ海の社会主義国キューバで開いた首脳会議の共同声明を採択しました。「米国の裏庭」で、新興国が歩調を合わせて発言力を高め、中国は「新興国にとって不公平な国際経済の秩序」に批判を表明する、としています。

また中国は、領土問題、宗教上の問題等で激しく対立してきたサウジアラビアとイランの関係正常化に水面下で仲介し中東諸国の分断の危機から緊張の緩和に繋がる動きをしています。

以上のように、中国が国際社会の中で影響力を高めています。こうした新しい情報を手に入れていくことも重要です。中国と日本は敵対しているのでしょうか。日本政府から流される情報だけを鵜呑みにして、国の言うままに動くということを変えていく必要があると思います。中国や北朝鮮とも対話をしていくことが重要なことと思います。

4. マスコミへの不審について

テレビのニュースを見ると、どの局も同じようなニュースが流れていて情報が統制されていると感じます。マスコミでもかつてリベラルな発言をしていたコメンテーターが、表から締め出されてしまうということが多々ありました。

今考えているのは、テレビ局の株主になって株主提案権を持ち、提案していこうということです。テレビはまだまだ信頼を得ているマスコミですから、内部から応援する気持ちで変えていこうと思っています。私たちの力でどこまでできるかわかりませんが、内容が変われば正しい情報が得られると思うのです。

(報告 陳内絹恵)



*トピック 映画の紹介 「君の根は。大地再生に いとむ人びと」

アメリカ合衆国、ケニア、メキシコなどの世界の様々な場所で、農業や牧畜を土壌の生物多様性を高め、化学物質の投入を削減していく大地再生農業 (regenerative agriculture) への転換に取り組む人びとのドキュメンタリー映画「君の根は。大地再生にいとむ人びと」の自主上映会のご紹介です。

近代的農業の除草剤、殺虫剤、抗生物質の過剰な使用が土壌劣化の一因となり、収穫量や栄養価が低下している指摘される中、大地再生農業は、土の中の多様な微生物や菌類の働きを助け、作物生産に活かすだけではなく、土壌の保水力の向上にも役立つそうです。その結果、降雨量が少ない土地でも天水農業が成り立ち、化学肥料や農薬、大規模灌漑設備管理費の節約ができ、利益があげられるという各地の取組等が紹介されます。また、大地再生農業は、洪水や干ばつへの耐性も強いという報告がされています。

を覆う

② 耕さない

③ 化学肥料や農薬などの化学物質の投入を減らし家畜を放牧する

他にも、映画の中では漁業での試みも取り上げられています。

開催日時：2023年11月18日(土)
13時～15時 (受付12時45分)

開催地：青少年交流・活動支援

スペース さくらリビング

第1研修室

横浜市中区桜木町1の1

ぴおシティ6F

JR京浜東北線・根岸線/桜木町駅
市営地下鉄/桜木町駅下車

徒歩3分

参加費用：千円 ※当日会場にて
現金で回収させていただきます。

大地再生農業の取組にご関心がありましたら、自主映画上映会と一緒に参加しませんか？

参加ご希望の方は、事前の参加登録をお願いいたします。(山田美智子)

予告編

事前登録

大地再生農業の特徴は3つ。
①カバークロップ(被覆植物)で土



女性会議関東ブロック会議

「私たちの生命・暮らしと原発」

大石 光伸さん

はじめに、講師の大石さん（東海第二原発運転差止訴訟原告団共同代表）は、自分の生い立ちを話す中で小さいころ母親が「雨が降ったら、放射能が降ってきて頭がはげるから家に入れ」とよく言われたことに触れました。それから、数十年後の原発事故で、生協の職員さんたちに「プルーム（放射性雲）で雨が降ると強い放射能が降ってきて危険だから、車や建物に避難しなさい」と自分が言うようになるとは思っていません。と振り返っていました。

3・11福島第一原発事故

関東の被害

2011年3月11日の東京電力福島第一原発事故で放出されたプルームは、3月15日と21日をピークに、東北部や関東に向けて幅広く拡散しました。3月15日早朝、東海村で空間線量の急上昇がみられプルームが通過しましたが、テレビで報じられたのは9時48分です。市民から教育委員会へ「線量が急上昇している

ので児童の登校を中止に」の訴えも無視されました。東海村はまだ停電・断水が続いており、市民は水をもらいに外に出ていて、呼吸し被曝しました。行政は住民にリアルタイムで情報を知らせ、外へ出ないで家にいるように言わなければいけません。

牛乳が出荷停止になってから母乳を調べてみたら、放射能が検出されました。吸入被ばくといって、空気を吸い込むだけで被ばくします。赤ちゃんは自分の呼吸で吸い込みお母さんの乳からも貰います。体重5キログラムの赤ちゃんが8500ベクレルを身体に取り入れるということは、相当恐ろしいことです。ですから、福島は東海村より10倍から百倍近い空気中の放射線の濃度が高いと思いますので、乳児への影響は大きいといえます。プルームが通過して住民は放射性物質をたくさん吸い込んでいます。被ばくしているからリスクがあることを政府は国民に対して説明していません。

2011年から福島県は、県民健

康調査で18歳以下の子どもの甲状腺検査を実施しました。これまでの健康調査で甲状腺がんと診断された人は36人（摘出手術26人）、県の検査以外で甲状腺がんが見つかった人は43人です。県民健康調査の甲状腺検査評価部会では「多発」は認められたものの「原発事故による被ばくと甲状腺がんの因果関係は現時点では認められない」としています。2022年、事故当時17〜28歳で甲状腺がんと診断され、摘出手術を受けた子どもたち6人が、東京電力を相手に損害賠償請求の裁判を提訴しました。

東海第二原発の危険性

東海村にある東海第二原発は、東京駅から100キロの位置にあります。この原発は、40年を超えた老朽原発で設計が古いのです。米GEの設計で、非常用のディーゼル発電機が福島第一原発と同様地下にあり、日本の津波を想定していません。また、古い設計の原発は一つの部屋に電源系統が全て入っているため、そこがやられると全てダメになってしまいます。さらに今は難燃ケーブルが使われていますが、古い原発は火がつくと燃えてしまうケーブルで4000キロ走っているそれに火が付いたら導火線のように燃えていきます。

住民訴訟と運動 水戸地裁判決

2021年3月水戸地裁一審で「避難計画及びこれを実行し得る体制が整えられているというにはほど遠い状態で住民の人格権侵害（生命・身体）の具体的危険がある」「運転してはならない」という判決が下りました。これは、福島第一原発の被害を重く受け止めている判決だと思っています。二審に向けて、住民側が準備書面の用意をしています。人格権が侵害されるのは、避難ができない障害者、高齢者、病気をかかえている人などの弱者です。

東海第二原発は再稼働に向けて工事が進んでおり、2024年9月に完了する予定です。そこで、裁判の今後は緊急時の人格権侵害の切迫性を訴え、2024年燃料装荷差止「仮処分」申立てをしていきます。

3・11後の裁判は、避難当事者である住民の生活権・自治権をめぐる、住民と自治体と一緒に暮らしを守るために闘うことが大事になっていきます。将来の世代に何を引き継ぐか考え闘い続ける、それが戦争と核の時代に生きている私たちの責任だと思っています。

報告 飯島 典子



思うこと

ヘルプマーク

(K・Y)

昨年11月、アーティストの椎名林檎のアルバムの付属グッズが、ヘルプマークに酷似しているため混乱を招くと批判を受けた。ヘルプマークは2013年、東京都が「義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見では分かりにくい配慮や支援を必要としている方が、周囲にそのことを知らせ、支援を得やすくする」目的で作成した。赤色の下地に白色のプラスとハートのマークが上下に書かれたもので、大きさは横6cm縦10cm程度が多いが、決まりはない。材質も紙、ビニール、木など様々で、2021年迄に全ての都道府県が導入した。今回、問題になったグッズはハートがリングのイラストになっていて、そ

れ以外はヘルプマークと同じだ。作成したユニバーサルミュージックは「アーティストは関与していない。会社の独断だった」と謝罪したが、役所に行けば誰でも貰えるため（証明書などは不要）、マークの重み（意義）を軽んじてしまったのだろうか。

10年余を経て普及が広がる中、ヘルプマークをアクセサリー感覚で付けたり、転売したりという問題が出てきて、信頼性が低下している。SNSの投稿では電車内の出来事として、ヘルプマークを付けた中年女性が優先席ではない座席に座っている人に「すいません、これ」とヘルプマークを見せて、座っている人をどかし自分が座った。その後の女性の様子から、ヘルプマークが本当に必要なのか、胡散臭いと感じたという。また、別の投稿では健康者なのに座席の獲得のために付けている人もいるのでは：「嘘つきだ」と書いていた。ヘルプマークは他者への配慮・支援から始まったはずなのに、今では猜疑心を生じさせている。

とは言え、椎名林檎の騒動を聞いても他人事だったヘルプマークの存在が、今年2月から一変した。夫が頭部を黄色ブドウ球菌に侵され、菌を除去するため右頭蓋骨の3分の1を切除した。そのためバランスがとれず立位や歩行が不安定になり（要介護2）早速、役所にヘルプマークを貰いに行った。3ヶ月後、通院のため付けて出たが、紙製（防水と聞いたが…）だったので切れてしまったのか、帰りには連絡先など個人情報書かれていたが、戻ってこなかった。ヘルプマークは長く使うことになるので、大きさや材質、個人情報保護のための対応など、改善の余地がある。

厚労省は現在、地域共生社会の実現に向けて改革を進めている。この理念は「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながって包摂的なコミュニティの創造をめざす。ヘルプマークがなくても困っている人がいれば「どこでも誰でも」手

を差し伸べ、周りが気づかなかつたら躊躇することなく本人が「ヘルプ」と言える、お互いに声をかけ、助けあえる社会であってほしいと、介護者になった今、切に願う。



女のしんぶん

女性のための、女性の手による新聞！
購読しませんか



発行：月2回（10日・25日）
購読料：月330円（送料別 126円）
申し込み先：女性会議神奈川県本部
TEL&FAX 045-662-8148